

### 中国及び韓国のファンディングエージェンシーの事業の概要と審査システム

#### 1. はじめに

独立行政法人日本学術振興会グローバル学術情報センター（以下、「情報センター」という。）は、諸外国の学術研究の動向及び学術振興機関の事業の実施状況に関する情報の収集等の業務を実施しており、平成 26 年度にはその成果の一部を CGSI レポート第 2 号「米独英のファンディングエージェンシーの審査システム」<sup>1</sup>を発行した。同レポートにおいては、米国の国立科学財団（NSF）及び国立保健研究所（NIH）、ドイツ研究振興協会（DFG）、そして英国の工学物理科学研究会議（EPSRC）及び経済社会研究会議（ESRC）の諸機関の事業及びその審査システムについて報告している。このような情報センターの業務は、学術研究活動に関する強固な国際協働ネットワークの構築に向けた学振の国際交流事業の実施の参考にもされている。

学振は、平成 27 年 5 月に世界各国の学術振興機関の長が参加するグローバルリサーチカウンシルの第 4 回年次会合を主催するなど、世界各国の学術振興機関との間で学術の国際交流事業を推進しているが、その実りある交流のためには、相手国の学術振興機関の事業について情報を得ることが重要である。そして、その対象には CGSI レポート第 2 号で取り上げた米欧諸国にとどまらず、アジア諸国など他の地域の機関も含まれることが必要と考えられる。

こうした背景の元、情報センターでは中国及び韓国の代表的なファンディングエージェンシーである中国国家自然科学基金委員会（National Natural Science Foundation of China: NSFC）及び韓国研究財団（National Research Foundation of Korea: NRF）について調査を行った。これらの機関と学振は、長年にわたり覚書に基づく諸事業を実施してきたことに加え、3 機関の長が参加する日中韓学術振興機関長会議（A-HORCs Meeting）をこれまで計 13 回開催するなど緊密な関係にあり、両機関の業務への理解を深めることは、学振の事業展開においても意味があると言える。

調査結果の詳細については、事業実施の参考として本会の学術システム研究センターをはじめとする関係各部署に提供したが、本レポートは、この調査結果のうち事業の概要と審査システムに関する部分を要約し公表するものである。

---

<sup>1</sup> [http://www.jsps.go.jp/j-cgsi/chousa\\_bunseki.html](http://www.jsps.go.jp/j-cgsi/chousa_bunseki.html)

## 2. 各ファンディングエージェンシーの概略

本レポートで対象とした両ファンディングエージェンシーは、いずれもその国の学術研究支援において重要な役割を果たしているが、各国で学術研究システムが異なることから、その設置形態や予算などは異なっている。両機関の概略は次のとおりである。

### ○ 中国国家自然科学基金委員会 (NSFC)

NSFC は、政府の国家自然科学基金の業務実施を目的として 1986 年に国務院直轄の機関として設置された。NSFC のミッションにあたるものは、国家自然科学基金委員会章程第四条に記載されているが、政府の科学技術戦略及び計画に従い、基礎研究支援を目的として国家自然科学基金を管理・調整し効果的に利用すること、科学的人材を掘り起し育成すること、そして、国家のための科学技術の進歩と調和的な社会経済発展を促進させることについての責務を負っていると、その業務について以下の 6 項目を挙げている<sup>2</sup>。

#### NSFC のミッション

1. 基礎研究の支援のための資金配分計画を策定・実施し、科学的人材を育成し、プロジェクトの申請を受理し、専門家による評価を行い、資金配分を行ったプロジェクトにかかる管理業務を実施、科学的リソースの効果的な配分を促進し、イノベーションに好適な環境を創造する。
2. 国家の科学技術を所管する行政部門と協力し、基礎研究の発展のための原則、政策、計画を策定し、国家の科学技術の発展における主要な課題に関する助言を提供する。
3. 国務院及び関連の政府行政機関により委託された事業を実施し、関連する機関との間で資金配分についての調整を行う。
4. 他の国及び地域の政府の科学技術行政機関、ファンディングエージェンシー、学術機関との間のパートナーシップを確立し、国際協力を実施する。
5. 中国の他の科学財団の業務を支援する。
6. 国務院により指示された他の業務を実施する。

### ○ 韓国研究財団 (NRF)

NRF は、1977 年に創設された韓国科学工学財団 (KOSEF)、1981 年に創設された韓国研究財団 (KRF) および 2004 年に創設された国際科学技術協力財団 (KICOS) が統合して 2009 年に設置された、政府の未来創造科学部 (Ministry of Science, ICT and Future Planning) 傘下の資金配分機関である<sup>3</sup>。

NRF は、科学技術・学術研究活動全般に対する支援を事業目的としており、具体的にはグラント等による研究支援、研究者の育成、国際交流、そして研究支援に関連した調査分析や大学等研究機関の運営の支援などの事業を実施している。

ミッションについては、「韓国が知識におけるグローバルなスーパーパワーに向けて飛躍するための新たなリーダーを育成する」という基本的な理念の下、以下の諸項目が示されている<sup>4</sup>。

<sup>2</sup> <http://www.nsf.gov.cn/Portals/1/fj/pdf/02-01.pdf>

<sup>3</sup> [http://www.nrf.re.kr/nrf\\_eng/cms/show.jsp?show\\_no=106&check\\_no=82&c\\_relation=0&c\\_relation2=0&c\\_now\\_tab=3](http://www.nrf.re.kr/nrf_eng/cms/show.jsp?show_no=106&check_no=82&c_relation=0&c_relation2=0&c_now_tab=3)

<sup>4</sup> [http://www.nrf.re.kr/nrf\\_eng/cms/show.jsp?show\\_no=106&check\\_no=82&c\\_relation=0&c\\_relation2=0&c\\_now\\_tab=2](http://www.nrf.re.kr/nrf_eng/cms/show.jsp?show_no=106&check_no=82&c_relation=0&c_relation2=0&c_now_tab=2)

## NRF のミッション

- 世界に向け韓国の潜在性の錠を開ける。
  - ・ 人類のより良い明日の約束として、NRF は、世界水準のファンディングエージェンシーとの緊密に協力し、焦点を絞った研究の発展を促進することにより、韓国を知識と頭脳力においてスーパーパワーの地位に高めるための活動を行う。我々はまた、未来に向けた新たなミッションとビジョンを提示することにより、研究資金の配分と韓国全体の発展への貢献に関するグローバルなリーダーシップに向けた取り組みを行う。
- 未来の知識創造に向け新たに付与された NRF という名称
  - ・ NRF は、未来指向の知識を創造し、次世代の研究者を育成することにより、世界における最も優れた研究資金配分機関の一つに数えられるようになった。
    1. グローバルな基準における研究者主導による研究に対する支援を提供する。
    2. 各研究分野からの意見に対応する形を維持し、また、国の研究支援に助言を提供する役割を果たすために、研究資金配分のポリシーと計画システムを強化する。
    3. ブレークスルー知識の創造を促進し、創造的な研究者を育成するための基盤の構築と環境の創造を行う。
    4. 創造的で積極的な研究に向けた支援を向上させることにより、未来の知識を創造する。
    5. プログラムマネージャーシステムを通して公正で専門性の高い研究資金配分と研究マネジメントを提供する。
    6. 複数分野のコンバージェンスを通して創造的な未来の知識と技術を開発することにより、付加価値の高い韓国製品の製造に結び付ける。
    7. 研究マネジメント機能を統合することにより、研究資金配分システムの専門性と効率性を向上させる。
- 人類と未来のための意味ある第一歩
  - ・ NRF は、複数分野の中核プログラムを通して知識創造、革新的な研究、グローバルな研究環境を構築することにより、世界の主導的な研究ファンディングエージェンシーとなることを目指す。

### 3. 各機関の事業の概略

#### ○ NSFC

NSFC の事業は、予算上、研究支援である研究項目系列 (Research Projects)、人材育成を目的とした人材項目系列 (Talent Projects)、そして研究機器や施設に加え他の諸事業を実施するための環境条件項目系列 (Projects for Research Environment Building) に区分される。これらの系列の下に各プログラムが設置されており、例えば研究項目系列においては、面上項目 (General Program)、重点項目 (Key Program)、重大項目 (Major Program)、重大研究計画 (Major Research Plan)、国際 (地区) 合作研究項目 (International (Regional) Joint Research Program) の 5 つのプログラムがある。それぞれのプログラムの 2013 年度予算額を表 1 に示す<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> NSFC, Annual Report 2013 Part V, p77 <http://www.nsf.gov.cn/publish/portal1/tab383/>

表 1. NSFC のプログラム別の予算額

(単位：100 万元<sup>6</sup>)

系列名	プログラム名	2013 年度 予算額	
研究項目系列 (Research Projects)	面上項目 (General Program)	12,000	
	重点項目 (Key Program)	1,663	
	重大項目 (Major Program)	390	
	重大研究計画 (Major Research Plan)	726	
	国際 (地区) 合作研究項目 (International (Regional) Joint Research Program)	553	
人材項目系列 (Talent Projects)	国家基礎科学人材培養基金 (National Science Fund for Fostering Talents in Basic Science)	126	
	青年科学基金 (Young Scientists Fund)	3,700	
	優秀青年科学基金 (Excellent Young Scientists Fund)	399	
	国家傑出青年科学基金 (National Science Fund for Distinguished Young Scholars)	388	
	創新研究群体科学基金 (Fund for Creative Research Groups)	新批項目 (New Projects)	170
		延續資助項目 (Extended Projects)	226
	地区科学基金 (Fund for Less Developed Regions)	1,200	
	海外和港澳学者合先研究基金 (Joint Research Fund for Overseas Scholars and Scholars in Hong Kong and Macao Scholars)	2 年期項目 (Two-year Projects)	24
		4 年期延續資助項目 (Extended to Four-year projects)	40
	外国青年学者研究基金 (Research Fund for International Young Scientist)	20	
環境条件項目系列 (Projects for Research Environment Building)	国家重大科研儀器設備研製專項 (National Major Scientific Research Equipment)	913	
	科学儀器基礎研究專款 (Fund for Fundamental Research of Scientific Instruments)	150	
	連合基金項目 (Joint Fund)	510	
	優秀重点実験室研究專項 (Fund for Excellent State Key Labs)	48	
	科普項目 (Fund for Public Understanding of Science)	8	
	青少年科技活動 (Fund for Youth Activity)	5	
	主任基金等其他項目 (President and Directors' Funds and Other Special Funds)	200	
	国家 (地区) 合作交流項目 (Fund for International (Regional) Cooperation and Exchange)	64	
総計 (Total)		23,524	

<sup>6</sup> 2013 年時点の為替レートはおおよそ 1 元 = 15.8 円

## ○ NRF

表2はNRFの予算項目である<sup>8</sup>。この予算項目による諸事業のうち、研究資金配分にかかる事業の中心は基礎研究事業の一環として行われるが、その2015年度予算として総計1兆807.9億ウォンが計上されており、その内訳は表3に示した多様なプログラムにより構成されている（表3の予算額はプログラム当たりの額であり、表2の基礎研究予算項目とは一致しない<sup>9</sup>）。

### 表2. NRFの項目別予算額

(2015年2月現在、単位：10億ウォン<sup>7</sup>)

大学教育機能向上及び人材開発	920.6
基礎研究	783.1
学術研究機能向上	584.0
有望な未来の基盤技術	581.7
研究促進及び基盤形成	459.0
航空宇宙開発促進	415.4
原子力エネルギー促進及び安全	316.2
国際協力	93.7
その他	68.7
計	4,222.4

### 表3. NRFの基礎研究事業のプログラム

(単位：10億ウォン)

事業種別・プログラム名	2015年度 予算額
<b>個人研究</b>	881.8
若手研究者支援 (Young Researcher Support)	142.5
若手研究者 (Young Researchers)	105.9
女性科学者 (Women Scientists)	31.0
若手メンタリング (Young Mentoring)	5.7
個人基礎研究者支援 (Individual Basic Researcher Support)	294.3
一般個人 (General Individual)	237.1
不遇分野 (Less Favored)	1.3
研究フェロー (Research Fellows)	31.2
地方大学の科学者 (Scientists in Local Universities)	24.8
中堅研究者支援 (Mid-career Researcher Support)	388.3
中核研究 (Core Research)	230.0
国家研究室 (National Research Lab)	158.3
主導的研究者支援 (Leading Researcher Support)	56.7
創造的研究 (Creative Research)	51.7
国家科学者 (National Scientist)	5.0
<b>グループ研究</b>	148.9
先進研究センター (Advanced Research Center)	105.9
基礎研究室 (Basic Research Lab)	20.5
グローバル研究室 (Global Research Lab)	22.5
<b>基礎研究基盤</b>	50.2
次世代研究者の育成 (Fostering Next-Generation Researchers)	16.9
主要研究機関 (Key Research Institute)	25.4
研究情報の利用 (Utilization of Research Information)	2.2
グローバル研究室データハブ (Global Lab Data Hub)	2.8
研究機器エンジニアトレーニング (Research Equipment Engineer Training)	2.9
<b>総計</b>	1,080.8

<sup>7</sup> 2015年時点の為替レートはおおよそ1ウォン=0.107円

<sup>8</sup> [http://www.nrf.re.kr/nrf\\_eng\\_cms/show.jsp?show\\_no=86&check\\_no=82&c\\_relation=0&c\\_relation2=0](http://www.nrf.re.kr/nrf_eng_cms/show.jsp?show_no=86&check_no=82&c_relation=0&c_relation2=0)

<sup>9</sup> NRF, 2015 Implementation Plan for Basic Research Programs, p9~p10

NRF の研究支援プログラムで特徴的な点のひとつは、一般の研究支援グラントにおいて、研究者のキャリアや業績・経験等に応じたプログラムが提供されていることである。若手研究者向けに「若手研究者 (Young Researchers)」、一般の個人研究者向けに「一般個人 (General Individual)」、中堅研究者向けに「中核研究 (Core Research)」、主導的地位にある研究者向けに「創造的研究 (Creative Research)」の各プログラムが設けられている。また、一般的に支援期間終了時には研究成果に対する評価が行われ、優れた評価となったプロジェクトに対してはフォローアップの支援を行うといった特徴も見られる<sup>10</sup>。

#### 4. 各機関の中核的なプログラム

##### (1) 中核的なプログラムの概略

3. で述べた各機関の事業のうち、NSFC では面上項目、NRF では中核研究が、予算規模や事業の性格から個人研究を支援する中核的なプログラムに相当すると思われる。それぞれのプログラムの概略は表 4 のとおりである。

表 4. NSFC 及び NRF の中核的なプログラムの概略

機関名・プログラム名	プログラムの概略
<b>NSFC</b> 面上項目 (General Program) <sup>11</sup>	ボトムアップによる基礎研究課題に取り組む研究者を支援し、全ての分野における均衡が取れ、調整された持続性のある形で革新的な研究を支援。 対象とする研究者は、(1) 基礎研究活動の経験があり、(2) 上級の専門的な職位にあるか博士号を保有している者、あるいは 2 人以上の上級の専門的な職位にある者が推薦する者。
<b>NRF</b> 中堅研究者プログラム (Mid-career Research Program) の中核研究 (Core Research) <sup>12</sup>	個人の研究を支援するプログラムの中でも若手研究者支援のためのプログラムと主導的地位ある研究者向けのプログラムの間に位置づけられるプログラムで、「中核研究 (Core Research)」と「国家研究室 (National Research Lab)」の二つのプログラムにより構成されている。両者とも中堅の研究者個人が研究代表者となるプログラムであるが、一般には前者の支援を受けた後、その成果の評価に基づき後者のプログラムに採択され支援を受けるという関係となっている。 「中核研究」の目的は、優れた基礎研究の能力を向上させ、中堅研究者のさらなる成長を促進させるため、高度に創造性のある個人研究を支援することとされている。

##### (2) 中核的プログラムにおける個々のグラントの特徴

それぞれの中核的プログラムの予算額、申請・採択数等、及び 1 件あたりの配分額は以下のとおりである。

<sup>10</sup> NRF, 2015 Implementation Plan for Basic Research Programs, p24~p25, p39~p40

<sup>11</sup> NSFC, NSFC Guide to Programs, 1. General Program, p1  
[http://www.nsf.gov.cn/Portals/0/fj/english/fj/pdf/2014/General\\_Program.pdf](http://www.nsf.gov.cn/Portals/0/fj/english/fj/pdf/2014/General_Program.pdf)

<sup>12</sup> NRF, 2015 Implementation Plan for Basic Research Programs, p30~p31

表 5. NSFC 及び NRF の中核的なプログラムの概略

機関名・プログラム名	項目	金額・件数等
NSFC 面上項目 (General Program) <sup>13</sup>	予算額	120 億元 (総支援事業予算 235 億元の 51%) (2013 年度)
	申請・採択数、採択率	申請件数 72,114 件、採択件数 16,194 件 (採択率 22.5%) (2013 年度)
	支援件数	不明 (支援期間は 4 年間であることから、継続を含めた支援件数は上記採択数 16,194 件の 4 倍程度と推定される)
	1 件あたりの配分額	約 74 万 1000 元 (2013 年度の平均)
NRF 中堅研究者プログラム (Mid-career Research Program) の中核研究 (Core Research) <sup>14</sup>	予算額	約 2300 億ウォン (NRF の予算総額 4 兆 2224 億ウォンの 5.4%、NRF の基礎研究プログラム予算額 1 兆 808 億ウォンの 21.3%) (2015 年度)
	申請・採択数、採択率	申請件数 3,427 件、採択件数 791 件 (採択率 23.1%) (2015 年度)
	支援件数	2,028 件 (2015 年度)
	1 件あたりの配分額と期間	配分額は 1~2 億ウォン (上記予算額を支援件数で除した平均の配分額は 1 億 1134 万ウォン) 標準配分期間は 3 年、最大配分期間は 6 年

## 5. ピアレビューによる審査

4. で取り上げた両機関のプログラムは、いずれも研究者によるピアレビューを基盤とし、書面審査及び合議審査を通じた審査により採否が決定されるという点で共通である。また、その点では科学研究費助成事業や CGSI レポート第 2 号において報告した米独英のファンディングエージェンシーによるプログラムとも多くの共通性が見られる。ただし、実際の審査の手順については、書面審査と合議審査双方の関係や、いずれを重視するかといった点において NSFC と NRF の間に違いが見られる。表 6 に双方の審査の概略を示す。

NSFC では、書面審査 (通訳評審) を行う者は当該研究分野の専門家をデータベースから 3 人以上無作為に選定するとしている。このことは審査員が科学的要素以外の理由によって作為的に選定されることを防ぐ効果があるが、例えば NSF で審査員の選定がプログラムオフィサーの重要な役割と認識されていることとは対照的である。なお、専門性の点から学術面における判断が困難な者に割り当てられる場合も想定されるが、その際の代替の審査員選定の手順についても定められている。合議審査については、NSFC は専門家により構成される合議評価 (会議評審) を組織するとされており、書面審査員の評価意見に従い採否を決定するとしている。

NRF では、申請書が受理された後、各分野の研究者五百数十人により構成される評価委員会 (Review Board) を中心として審査が進められる。審査は書面審査と合議審査からなり、書面審査を行う者の多くは評価委員会のメンバーであり、書面評価を行った者自身が合議審査に出席し、採否にかかる審議が行われる。最終的な採否の決定は、NRF の評価委員会における審査の後、未来創造科学部 (Ministry of Science, ICT and Future Planning: MSIP) に置かれた基礎研究プロ

<sup>13</sup> NSFC: NSFC Guide to Programs, 1. General Program, p1~p2  
[http://www.nsf.gov.cn/Portals/0/fj/english/fj/pdf/2014/General\\_Program.pdf](http://www.nsf.gov.cn/Portals/0/fj/english/fj/pdf/2014/General_Program.pdf)

<sup>14</sup> NRF: 2015 Implementation Plan for Basic Research Programs、及び 2015 年度申請採択一覧表 (NRF 日本事務所より入手)

グラム実施委員会（Basic Research Program Implementation Committee）により行われるが、この決定は NRF の評価委員会の結論が尊重されると言われている。

表 6. NSFC 及び NRF の審査の手順

NSFC 面上項目（General Program） <sup>15</sup>	NRF 中堅研究者プログラム（Mid-career Research Program）の中核研究（Core Research） <sup>16</sup>
<b>審査制度の概略</b>	<b>審査制度の概略</b>
書面審査と、その結果に基づく合議審査の 2 段階審査	NRF の評価委員会による書面評価に基づく合議審査と、未来創造科学部のプログラム実施委員会における最終的な採否の決定
<b>審査の流れ</b>	<b>審査の流れ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書面審査（通説評審） データベースにある当該研究分野の専門家の中から無作為に選定された 3 人以上の当該分野の研究者が書面による評価を行う。</li> <li style="text-align: center;">↓</li> <li>・合議評価（会議評審） 専門家により構成されるパネルにおいて、書面審査員の評価意見に従い採否を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NRF における書面審査 NRF の評価委員会のメンバーまたは他の専門家 3～4 人が書面による評価を行う。</li> <li style="text-align: center;">↓</li> <li>・NRF における合議審査 NRF の評価委員会に設置された評価パネルにおいて、書面評価の内容を参照し審議を行う（評価パネルでは、書面評価を行った者が担当となり審議を進める）。</li> <li style="text-align: center;">↓</li> <li>・未来創造科学部における最終的な採否の決定 未来創造科学部に設置されたプログラム実施委員会による選考会において、NRF の評価委員会の結論を参考に最終的な採否が決定される。</li> </ul>

## 6. 評価基準にみる評価の観点

両機関の審査における評価基準を表 7 に示す。研究の科学的価値や創造性など学術的な側面を重視しつつ、研究者の能力や研究手法など研究実施面にかかる評価や、研究成果の期待に関する評価など多面的な基準により評価が行われていることが理解できる。

<sup>15</sup> NSFC, Policies, Regulations, 3. Application and Evaluation  
<http://www.nsf.gov.cn/publish/portall/tab283/info24545.htm>

<sup>16</sup> NRF, 2015 Implementation Plan for Basic Research Programs、及び Han Jin, LEE NRF 日本事務所長より聴取した内容に基づく（聴取日：平成 28 年 2 月 9 日）



表 7. 各プログラムの評価基準

機関名・プログラム名	評価基準
<p><b>NSFC</b> 面上項目 (General Program) <sup>17</sup></p>	<p>評価の専門家は、独立した判断を行うこととし、以下の諸点から評価を行い、評価意見書を提出することとされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的価値 (scientific value)</li> <li>・イノベーション (innovation)</li> <li>・社会への影響 (social influences)</li> <li>・研究手順の妥当性 (feasibility of research schemes)</li> </ul> <p>また、申請に関する評価意見書の提出に際し、評価の専門家は以下の点について考慮することとされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申請者及び研究参加者の研究経験 (research experiences of the applicants and participants)</li> <li>・資金を使うことに関する計画の妥当性 (rationality of the plan for using the funds)</li> <li>・研究課題に関連する他のグラントの情報 (information on other grants for the research topics)</li> <li>・申請者が獲得したグラントの実施状況 (information on the implementation of the funded projects by the applicants)</li> </ul> <p>さらに、継続的な資金配分については、その必要性 (necessity for continuous subsidies) についても考慮しなければならないとされている。</p>
<p><b>NRF</b> 中堅研究者プログラム (Mid-career Research Program) の中核研究 (Core Research) <sup>18</sup></p>	<p>以下の各評価基準により、合計 100 ポイントとなる配点が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性・挑戦性 (Creativity or Challenge) : 50 ポイント</li> <li>・研究内容 (Research Contents) : 20 ポイント</li> <li>・研究代表者の卓越性 (Excellence of PI) : 20 ポイント</li> <li>・研究成果への期待 (Expectation of Research Performance) : 10 ポイント</li> </ul>

## 7. おわりに

NSFC と NRC の中核的プログラムは、研究者の自由な発想によるボトムアップ型の研究を支援するという目的や、ピアレビューを基盤とする審査を通じた支援が行われるという手順などにおいて共通性がある。このような目的や手順は、科学研究費助成事業とも一致する面があり、また、CGSI レポート第 2 号で報告した米独英のファンディングエージェンシーの事業と多くの共通点を見出すことができる。

さらに、このような学術研究支援にかかる審査方法の共通性は、例えば 2012 年に開催されたグローバルリサーチカウンシルの第 1 回年次会合で発表された「科学におけるメリット・レビューの原則に関する宣言」において示された、専門家による審査・評価 (Expert Assessment) といった諸原則と一致するものであり、世界の多くの学術研究振興機関が共有する理念であると言

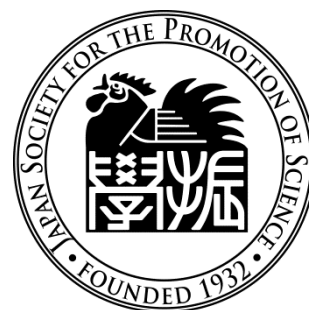
<sup>17</sup> NSFC, Policies, Regulations, 3. Application and Evaluation  
<http://www.nsf.gov/publish/portall/tab283/info24545.htm>

<sup>18</sup> Han Jin, LEE NRF 日本事務所に確認した内容に基づく (聴取日: 平成 28 年 3 月 1 日)

うこともできる<sup>19</sup>。

独立行政法人日本学術振興会グローバル学術情報センター  
CGSI レポート 第3号  
平成28年3月28日発行

独立行政法人日本学術振興会グローバル学術情報センター  
〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1 麹町ビジネスセンター  
電話：03-3263-1971 電子メール：cgsi@jsps.go.jp



---

<sup>19</sup> Global Research Council, Statement of Principles for Scientific Merit Review  
[http://www.globalresearchcouncil.org/sites/default/files/pdfs/gc\\_principles-English.pdf](http://www.globalresearchcouncil.org/sites/default/files/pdfs/gc_principles-English.pdf)